TVシリーズ 全13話予定

猟奇的な恋人（仮）

企画書



その男が恋した女は、最恐の怪物。
彼女が愛した男は、最強の怪物ハンター。
敵対する"血筋"に属しながら、断ち難い絆で結ばれた二人。

「お前といると死にそうだぜ、ベイビー」
「あなたとなら地獄にだって堕ちるわ、ハニー」

それは、愛という名の共犯関係。

『クレヨンしんちゃん』『ねこぢる草』『音響生命体ノイズマン』など、縦横無尽のイマジネーションで多くのアニメファンを魅了してきた"天才"クリエイター、湯浅政明。2004年には劇場アニメーション『マインド・ゲーム』で待望の長編監督デビューを飾り、才気溢れるストーリーテリングと骨太な演出力を示して一躍注目の存在となった。その彼が初のオリジナル企画を携え、さらに意欲的な作品世界に挑もうとしている。

タイトルは『猟奇的な恋人（仮）』。現代に生きるモンスターと人間の対立を背景に、ハードかつアダルトな愛憎のドラマが展開する、ホラー×アクション×ラブストーリー。裏切りと策謀に翻弄される男女のメロドラマが、ダーク・ファンタジー的な設定と、ケレン味たっぷりの軽妙洒脱な語り口で描かれる。巨大モンスターが暴れ回り、剣・銃・ロボット兵器などを駆使して繰り広げられる、荒唐無稽かつスタイリッシュなアクションも見どころだ。これまでのTVアニメにはなかった、刺激的エンターテインメントの誕生である。

我々はここに、湯浅政明監督の完全オリジナル作品『猟奇的な恋人（仮）』のアニメーション化を提案する。

湯浅監督の言葉

どろどろした殺伐としたストーリーを、極力ふざけて洒落た感じで描く。B級ホラーや香港映画のテイストも絡めた、『レジェンド・オブ・メキシコ』風の作品を目指しています。

【原作・監督】湯浅政明

奇抜なビジュアルセンスと、トリッキーなアニメートで知られる唯一無二のクリエイター。他の追随を許さない独特の作風で、原画マン時代から"天才"の名をほしいままにしてきた。初の長編監督作品『マインド・ゲーム』('04)では、映像面でもさることながら、演出・作劇面でもずば抜けた手腕をふるい、未曾有の傑作を誕生させた。同作は多くの観客から絶大な支持を受け、『ハウルの動く城』『イノセンス』といった大作を押さえて《平成16年度文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞》を受賞。今、映像業界で最も注目すべき存在として、世界の表舞台に躍り出た気鋭のアーティストである。

アニメーターとしての代表作は『ちびまる子ちゃん』('90〜)、『クレヨンしんちゃん』('92〜)、『THE八犬伝[新章]』('94)。『クレヨンしんちゃん』劇場版シリーズ('93〜)では作画のみならず、キャラクター・設定デザインも手がけ、独自の才能を開花させた。森本晃司監督とのコラボレート作品『音響生命体ノイズマン』('97)では、作画監督・キャラクターデザイン・世界観設定を担当し、独特のビジュアル世界を創造した。佐藤竜雄監督のOVA『ねこぢる草』('01)では脚本・演出・作画監督を手がけ、奔放なイマジネーションを縦横無尽に展開している。

その独創性を演出家としても発揮するようになってからは、数本の短編で監督を経験。2004年にSTUDIO4℃で初長編『マインド・ゲーム』を完成させ、トップ監督の仲間入りを果たした。一方で現在もアニメーター湯浅政明へのラブコールは多く、『ドラえもん』の劇場新作や『サムライチャンプルー』('04)などに原画として参加している。

TVシリーズ　全13話予定

『猟奇的な恋人（仮）』

――承前――

古来日本には、人をも食らう「食人鬼」と呼ばれる獣がいた。彼らは長い年月の間に人間界に溶け込み、姿形も普通の人間と変わらなくなっていた。子供の頃から薬を飲み、獣に変体する遺伝子を抑え、今も普通に生活を営んでいる。

それに伴い、獣を退治するために編み出された古武道・獣殺剣も、今では形だけのものとなっていた。かつて獣だった家系の末裔も、獣殺剣の使い手達の末裔も、秘かに互いの動向を把握しながら、秘密だけは守り合っていた。

――はじまり――



現代。古武道・獣殺剣の演舞場。まばらな客席。扇形に並ぶ何台ものピッチングマシーンから飛んでくる球を、踊るような軽快な動きで受け止めていく本多俊彦（30）。獣殺剣を受け継ぐ本多家末裔・本多十蔵の息子である。それを憎らしげに見つめる本多家二男、本多一馬（25）。一馬が想いを寄せる上杉利江（27）も、俊彦の鮮やかな演技を見つめている。

最近、巷では猟奇的な殺人事件が頻発していた。被害者達の身体には、獣の爪で引き裂かれたような傷があった。一馬はそれを「復活した獣の仕業だ」と言い、「今こそ獣爪剣を復活させなければ」と説く。彼はかねてより、封印されている秘剣・獣爪剣の復活を目論んでいたが、父の十蔵からは頑なに反対されていた。獣殺剣を現実的なものとは思えず、その由来にも関心がない俊彦は、そんな弟の姿を不思議な気持ちで見ていた。

俊彦には、別の人生の目標があった。最近つきあい始めた恋人・浅間由佳（28）との結婚を考えていたのだ。彼女もまた、彼のことを深く愛していた。

そして悲劇は起きた。館主・本多十蔵が殺害されたのだ。その身体には、獣の爪で引き裂かれたような傷痕が……。一馬は「獣が復活したに違いない」と言う。

新館主には俊彦が指名された。父の死にショックを受ける俊彦は、真面目に獣殺剣の歴史を紐解いていく。そこへ一馬がやってきて、復活した食人鬼の一体を見つけたと言う。それが俊彦の恋人だというのだ。



信じない俊彦に、一馬はある提案をする。

高級レストランへ由佳を呼びだした俊彦。二人のテーブルを隠れて見守っている一馬達。俊彦は、言葉を使って由佳が変体するように仕向けていく。彼女は我慢しているが、しきれず変体。一馬の言う通り、彼女は食人鬼だったのだ。修羅場と化したレストランで、生け捕られる獣＝由佳。



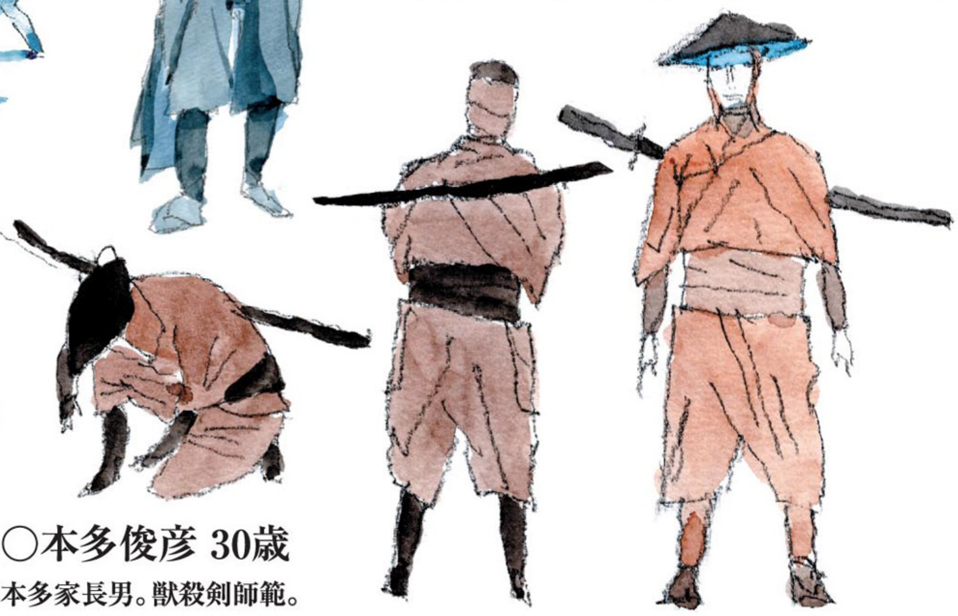
獣殺剣館主として、これから獣と対峙していかなければならない俊彦。しかし、一度好きになった彼女への気持ちを整理することもできない。果たして彼のとるべき道は？

登場人物紹介

○=人間（獣殺剣会員）
●=食人鬼





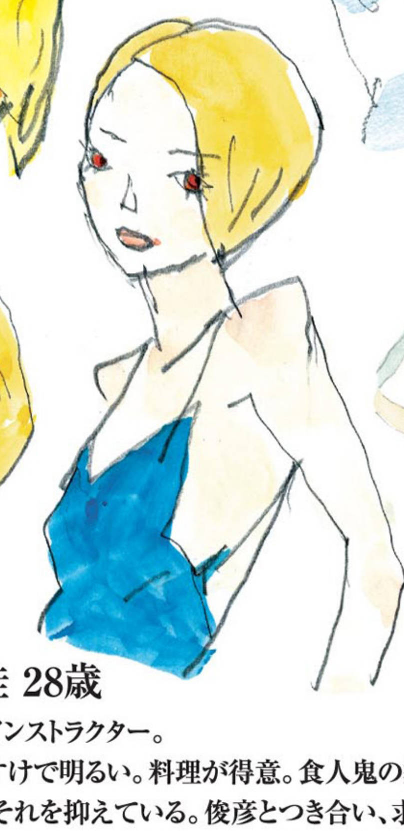


○本多俊彦 30歳

本多家長男。獣殺剣師範。
子供の頃からのトラウマで、緊張するとお腹を下してしまう癖が治らず、常にオムツを着用。人前では虚勢を張っている。カウンセラーの紹介でスカイダイビングを始め、そこで知り合った由佳と恋に落ちる。オムツの事がバレても、屈託のない彼女といるのが楽しく、プロポーズも考えるが……。父・十蔵の死により、食人鬼抹殺を目的とする獣殺剣の館主に就任。食人鬼である恋人を斬らなければならなかったが、出来ず、迷いながらも彼女と逃走する。





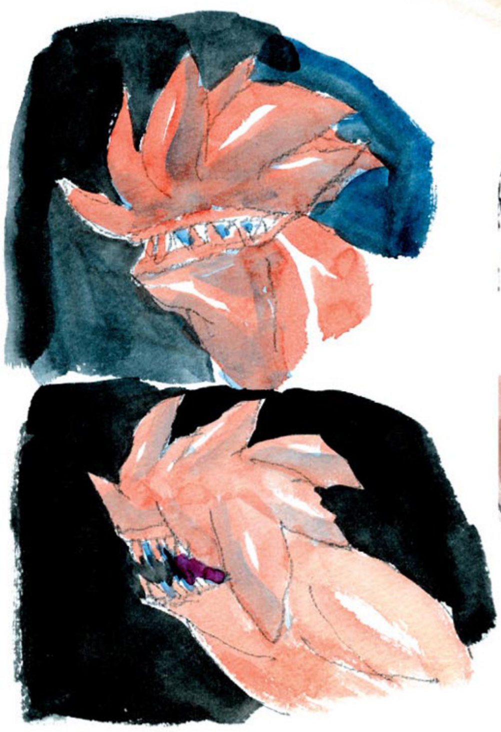

●浅間由佳 28歳

スカイダイビングインストラクター。
大雑把で、あけすけで明るい。料理が得意。食人鬼の家系に生まれるが、薬を飲みながらそれを抑えている。俊彦とつき合い、求婚までされるが、悪巧みによって食人鬼に変体する。明るく振る舞っているのは暗い境遇のゆえであり、まれに突然、悲しみを見せる。



●普賢岳人 35歳

由佳が勤める航空会社の小型機パイロット。密かに、というか分かりやすいくらい由佳に想いを寄せていて、俊彦を敵視している。母を殺された恨みから獣殺剣元館主、十蔵を殺したと最期に告白する。















○●本多一馬 25歳

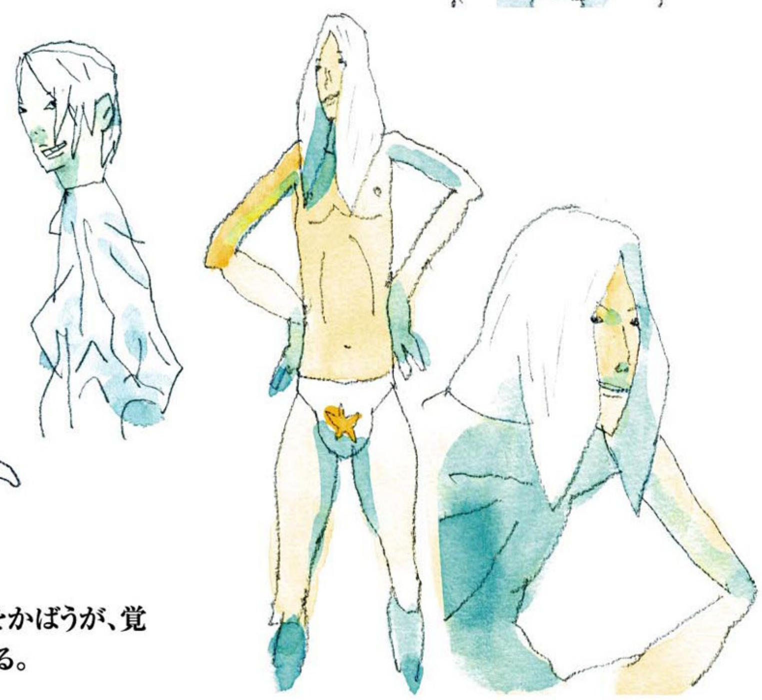
本多家二男、養子。獣殺剣準指導員。
自分を産んだあと母が自殺したせいか、功を焦り、俊彦にはかなわない獣殺剣ではなく、封印されている獣爪剣の復活を企む。そのためにはいかなる手段も弄する危険な男だ。変体抑制薬の工場で働く阿蘇望をたらし込み、薬の中に覚醒剤を混ぜ、変体の促進を目論む。父の部屋や俊彦の部屋にもカメラを仕掛け、監視している。実は父親が食人鬼であり、だんだんと覚醒していく。彼自身は己の正体を知らない。

○上杉利江 27歳

フードライター・獣殺剣会員。
俊彦や一馬と幼なじみで、今も友達。俊彦に想いを寄せている。覚醒し変調を来していく一馬を心配してかばうが、発狂した一馬の手にかかり殺される。







●浅間卓也 22歳

田舎にいる由佳の弟。サーファー。
同じ町に住む望に想いを寄せている。リンチにあう望をかばうが、覚醒し図らずも本能に目覚める。対獣殺剣の急先鋒となる。



●富士香 29歳

男を手玉に取り、殺戮を繰り返す食人鬼。

●阿蘇望 20歳

田舎の薬工場で働く。
東京からやって来る一馬にそそのかされ、工場の薬に手を加える。それがバレて一族からのリンチにあい、覚醒するが、同じく覚醒した卓也によって逆に噛み殺される。

○本多十蔵 60歳

密かに獣殺を続けていた獣殺剣館主。俊彦、一馬の父。妻は俊彦を産んだ後、食人鬼一族の子を身ごもり出産。それが一馬である。十蔵は後に、幼い俊彦を伴って相手の男=獣を斬るが、それは由佳と卓也の父でもあった。同じようにかつて斬った食人鬼の息子、岳人に殺害される。

○徳川刃 45歳

元獣殺剣会員。俊彦が通う精神科クリニックの開業医。今も獣殺剣事情に通じている怪しい男。俊彦にスカイダイビングを勧めるだけでなく、ピンチの時に横笛を吹きながら颯爽と現れ、彼を救う。

○長身の男

俊彦と由佳を狙う獣殺剣からの刺客。

○毛利元弘 30歳

獣殺剣指導員。

シリーズ構成案

第1話

古武道・獣殺剣演舞。まばらな入りの客席。扇形に並ぶピッチングマシーンから繰り出される球を、踊るような軽快な剣さばきで受けながら前へ押し進む本多俊彦（30）。同時に剣でピッチングマシーンを粉砕していく。声援する利江（27）。それを見て嫉妬する弟の本多一馬（25）。

突然、俊彦のお腹に不穏な音と痛みが走る。小さい頃のトラウマで、ある種の緊張を感じた途端、お腹が下る体質なのだ。トイレに行きたいが、何とか演舞を最後までこなし、冷静を装いつつ退場する俊彦。一刻も早く便所に向かいたい。が、館主・本多十蔵から呼びつけられる。武術の師であり、しつけに厳しい父・十蔵には逆らえないのだ。

姪の利江と結婚し、獣殺剣を継いでくれないか？　という話。まだその気がない俊彦は聞き流し、便所に急ぐが、ぎりぎりのところで漏らしてしまう。手慣れた感じで使用済みオムツをゴミ箱に捨て、何食わぬ顔で新しいパンツをはく俊彦。人前では虚勢を張っている。

一馬は古武道として知名度を失っている獣殺剣を盛り上げる為に、今はもう封印されている秘剣・獣爪剣を復活させるべきだと熱心に説く。だが、父の十蔵には反対されていた。獣殺剣の歴史を現実的なものとは思えない俊彦には、感心がない。最近、巷で獣の爪で身体を引き裂かれたような殺人事件が起こっており、一馬はそれも「復活した食人鬼の仕業だ」と力説していた。

俊彦は緊張する性格を解く為、カウンセリングに通っていた。「トラウマがあるよ。そしてそれを自分で忘れたがってる。このまま知らない方がいいのかも」と言う精神科開業医、徳川刃（45）。俺が行ってる航空会社を紹介すると言われ、スカイダイビングを経験することになる俊彦。そこにはインストラクターの浅間由佳（28）がいた。彼女は怖がる俊彦を面白がり、からかって遊ぶ。パイロットは普賢岳人（35）。

飛び降りる前から俊彦のお腹は下り始め、空に飛び出して地上へ落ちる間にやっぱり漏らしてしまう。何とか着地はできたものの、オムツを着けていることもバレてしまい、由佳や岳人に笑われる。このことは黙っててくれと懇願する俊彦だが、笑われっぱなし。

父・十蔵の隠し部屋に入り、獣爪剣のコスチュームを発見する一馬。企み顔が浮かぶ。

第2話

相変わらず俊彦はオムツを手離せなかったが、スカイダイビングの世界は楽しかった。オムツのことまで知られてしまった俊彦は、屈託無く二人と付き合えた。

由佳の作った「半殺し」をごちそうになる俊彦。おはぎのことで、米を半分潰すところから言うらしい。「由佳の作った海老フライも旨いんだよな」と自分の優位性をほのめかす岳人。しかし俊彦は気にせず、照れる由佳を連れてデートもする。コーヒー、お酒は飲まない由佳。俊彦は時折、獣殺剣の演技中にも笑顔を見せるようになる。

俊彦の部屋の映像を、一馬が見ている。盗撮し、監視していたのだ。俊彦が家業の獣殺剣の話を出すと、岳人と由佳の顔色が変わる。

指輪を買う俊彦。一馬はその情報をすぐ手に入れる。俊彦が由佳に惚れていると知り、ニヤリと笑う一馬。

部屋に帰った由佳。このところ何でもない人が皆、俊彦に見えてくる。苦しくなり、すぐに薬を飲む。シャワーを浴びながら苦痛に悶える由佳。

俊彦は電話で呼び出され、獣殺剣館主、本多十蔵が殺害されたことを知る。致命傷となったのは、深く刻まれた獣の爪痕だった。

第3話

本多十蔵の葬式。ちょっと変わった獣殺剣葬。落ち込んでいる俊彦を慰める由佳。俊彦は由佳の部屋に泊まりたいが、断られる。利江の誘いもあったが、それも断る。

次期館主として俊彦が指名される。現実的でないと思っていた獣殺剣の歴史を、初めて紐解いていく俊彦。そこへ一馬がやって来て、葬式で見かけたお前の女——由佳が、復活した食人鬼の一体だと言ってくる。十蔵殺害も彼女じゃないか？　信じられない、ウソだ。それなら彼女をテストしてみたらいい、と一馬に言いくるめられる俊彦。

俊彦は、大事な話があると言って由佳をレストランに呼び出す。店内に隠れている獣殺剣会員達。言葉や食べ物で、彼女が変体するように仕向けていく。我慢していた由佳だったが、こらえきれず、ついに変体。一斉に獣殺剣会員達が飛び出す。「斬れ！」と剣を渡されるが、ショックで斬れない俊彦。鎖がかけられ、生け捕りにされる獣=由佳。

第4話

落ち込む俊彦を尻目に、元気な一馬が獣殺剣本部を取り仕切っている。俊彦を慰める利江。獣爪剣復活を承諾した俊彦に、一馬は言う——公安機構と我々はつながっている。心おきなく、始まった任務をこなせ。

由佳は裸で鎖につながれている。服を着せろ！　彼女も人間なんだ！　と俊彦は訴えるが、服を着せてもすぐ変体して破けてしまうんだ、と説明される。

早速、食人鬼が現れたという情報が入る。俊彦も気持ちを奮い起こし、現場へと出向く。獣殺剣の任務を遂行しなければ。

車椅子の老人が、介抱していた老女を殺したらしい。部屋でぶつぶつ呟きながら座っている老人。俊彦が声をかけると、老人は突然変体して襲いかかってきた。格闘。斬る。

やるせなく、利江を部屋に連れ込む俊彦。

第5話

獣殺剣会員だった男が殺される。彼を殺した食人鬼を探し当て、斬る俊彦。食人鬼が飼っていた子犬を拾う俊彦。いけないわ、と利江にたしなめられるが、そのまま連れて帰る俊彦。

岳人が獣殺剣本部に侵入。獣殺剣会員達を次々なぎ倒していく。全く歯が立たない。一馬が獣爪剣の装備で挑むが、あっけなく負傷する。俊彦も挑もうとするが、一馬に剣を隠されたため戦えない。由佳が狙いだと分かると、鎖で由佳と自分の身体を繋ぎ、彼女を取られまいとする。岳人は二人一緒に連れ去る。

一馬は利江に抱き起こされる。実は準備している物があるんだ。俺を、俺をその椅子に座らせてくれ。館主の椅子に座る一馬。

第6話

廃墟。犬も岳人達について来ていた。椅子に手足を縛り付けられ、顔には布袋が被せられている俊彦。尋問。下の世話は口をつぐんだままの由佳が。

岳人は俊彦に語る。我々の仲間の中で、由佳のように突然変体する者が現れるようになってしまった。だが彼女が館主を殺しているはずがない。今も肉を食わずに節制しているんだ。変体を抑止していた常用薬に問題があるのかもしれない。田舎の○○という町に、その工場がある。

由佳は、田舎の○○に住んでいる弟・浅間卓也（22）に電話する。卓也は同じ町に住んでいる阿蘇望（20）に想いを寄せている。だが彼女は最近、都会からやって来る男と付き合っているようだった。化粧をし、服も派手になった望。卓也はそんな彼女が気に入らない。「東京の男か」。

都会の男とは一馬であった。望は彼にそそのかされ、渡された粉を働いている薬工場のラインに混ぜていた。望は後ろめたくてやめたかったが、一馬に捨てられそうで出来なかった。

東京に戻った一馬は、都内の工場に準備していたロボット獣爪剣を視察に行く。

第7話

廃屋。今日も物言わぬ誰かの世話を受ける俊彦。由佳だろ。喋らない。構わず、俊彦は想いのたけを喋る。二人で南の島で暮らそうよ。が、いたのは岳人。由佳も聞いていた。

俊彦の靴を調べると、発信機が詰めてあった。攻め入ってくる獣殺剣会員。ロボット獣爪剣。銃も使ってくる。俊彦も殺されそうになり、ここに来てやっと疑念が脳裏をよぎる。一馬、お前か？　お前が仕組んでいるのか？　おそろしく強いロボット。変体しても歯が立たない。岳は俊彦に、由佳を連れて逃げろと言う。変体した由佳に連れられ、逃げる俊彦。

第8話

ラブホテルに隠れている二人。犬も一緒だ。ニュースでは何もやってない。カードも使えなくなる。

いろいろ考え、二部屋とった俊彦。一緒に泊まりましょうよ。さみしいわ。なつっこい由佳。何で俺なんだ。だってあたしのこと好きでしょ。色仕掛けで由佳が誘ってくるが、それは彼女の変体を誘うので我慢我慢。変体しやすい食べ物はコーヒーや肉など。逆に変体を抑えるには、ハーブなどがイイみたいだ。

二人は、由佳の弟がいる田舎に向かうことにする。途中、店で精神科医・刃に会う。刺客かと思うが、サヤから笛を出し一曲吹く。「長身の男に気をつけろ」と言い残し去る刃。

獣殺剣の技にある、相手の動きを止める６つのツボ。そこを切り裂けば食人鬼は死ぬ。そうでなければ、彼らは頭を吹っ飛ばされても死なないのだ。動いている間にその６箇所を斬れるのは俊彦のみ（他の者は、相手を傷つけ動けなくさせてから、とどめを刺す）。斬らなくとも、そのツボさえ押さえれば身動きできなくさせることができる。危なくなった時には由佳のツボを突けばいいのだ。

由佳は見よう見まねで、ツボの幾つかを自分で押さえてみる。他のところも教えて！　と飛びかかってくる由佳。俊彦は止めようとして、思わず残りのツボを突いてしまい、同時に入って動けなくなってしまう。その時、刺客の影が。４メートルぐらいある長身の男が、二階の窓から部屋の中を覗く。犬が二人を見えないように隠して、助ける。

第9話

真っ暗な山道を歩く二人。時折通る車のライトで道を確認し、歩く。由佳が変体すれば夜目が利くが、それは願い下げたい。

シーズンオフで使っていない別荘に泊まる。楽しいひととき。二人は長身の男に襲われるが、管理人は大音量でレコードをかけていて気がつかない。由佳が変体し、長身の男を殺してしまう。初めてのことで震える由佳を、俊彦は抱く。交わしながら、また変体し始めるが、構わず続ける。

第10話

廃屋、昔の火葬場。お前に彼女が守れるのか？　俺が彼女に守られてるのか？　自問自答の俊彦。何で俺なんだ。あたしを受け止められるのはあなただけだから、と由佳は返す。

店にオムツを買いに来たところで、利江達に捕まる俊彦。あなたじゃないとやれない獣がいるの。彼女が大事なら協力して。よそよそしい利江。由佳の安全の為に承諾する俊彦。

俺にしか斬れない獣？　それは幼なじみの獣殺剣会員だった。斬る。

隠れ家に戻ると、由佳は置き手紙を残して消えていた。

第11話

望に、一族の捜査の手が及んでいく。問いつめられた望は、工場の薬に細工していたことを認める。だって彼が、だって彼が。卓也が止めに入るが、思い詰めた望は変体し、暴れる。卓也も変体して彼女を押さえ込もうとするが、逆に本能に火がつき、好きなはずの望を食い殺してしまう。涙。美味い……。そこへ駆けつける由佳。

我々はそういう風に生まれたんだ。なぜ薬を飲んで、我慢して生きなければならない？　ずっと生きていけるのに、なぜ寿命を作って死ななければならない？　殺されなければいけないんだ！　殺せ！！　半分自棄で一族を決起させる卓也。親を殺された者や、知り合いを殺された者も多く、若者達は煽動に従う。引き止める由佳や年寄り達をなぎ倒し、東京へ向かう卓也達。目標は獣殺剣本部だ。

傷つき倒れている由佳の元に、追いついた俊彦が駆け寄る。卓也を止めて、私の弟を。あなたの弟の一馬にも、私達と同じ血が流れてる。弟なの。一馬も弟なの！

第12話

獣殺剣本部の一馬。身体が変体し始め、病んでいる。以前、岳人に傷つけられた時に感染したのではないかと思い込んでいる。利江はそれを他の会員に隠し、かばっている。同情からのめり込み、体を許していく利江。一馬は変体すると自ら牢屋に入り、鍵をかけ閉じ籠もる。もう大丈夫かと鍵を開け、泣いて抱き合う二人――

気がつくと利江は死んでいた。またいつの間にか変体して、自分が殺してしまったのだ。手首を切ってもすぐ再生する。側近も離れていく。一馬発狂。死のうとして飛び降りても、化け物に変化して死なない。俺は養子だから。俺は養子だから頑張らないと。一生懸命やったのに。

そこへ卓也が入ってくる。もう本部はもぬけの殻だ。駆けつける俊彦。卓也対俊彦。生きていた岳人が加勢に入る。戦いながら懸命に説得するが、最後には望のことを言い残し、自ら命を断つ卓也。

第13話

一馬対岳人と俊彦。精神科医も参戦する。大砲。機関銃VS剣。ロボット空中対決。致命傷を負った岳は、落ちて行く時に館主を殺したのは自分だと告白する。お前が幼い頃に見たのは、由佳の父が殺されるところだ。俺も親を殺された恨みがあった。

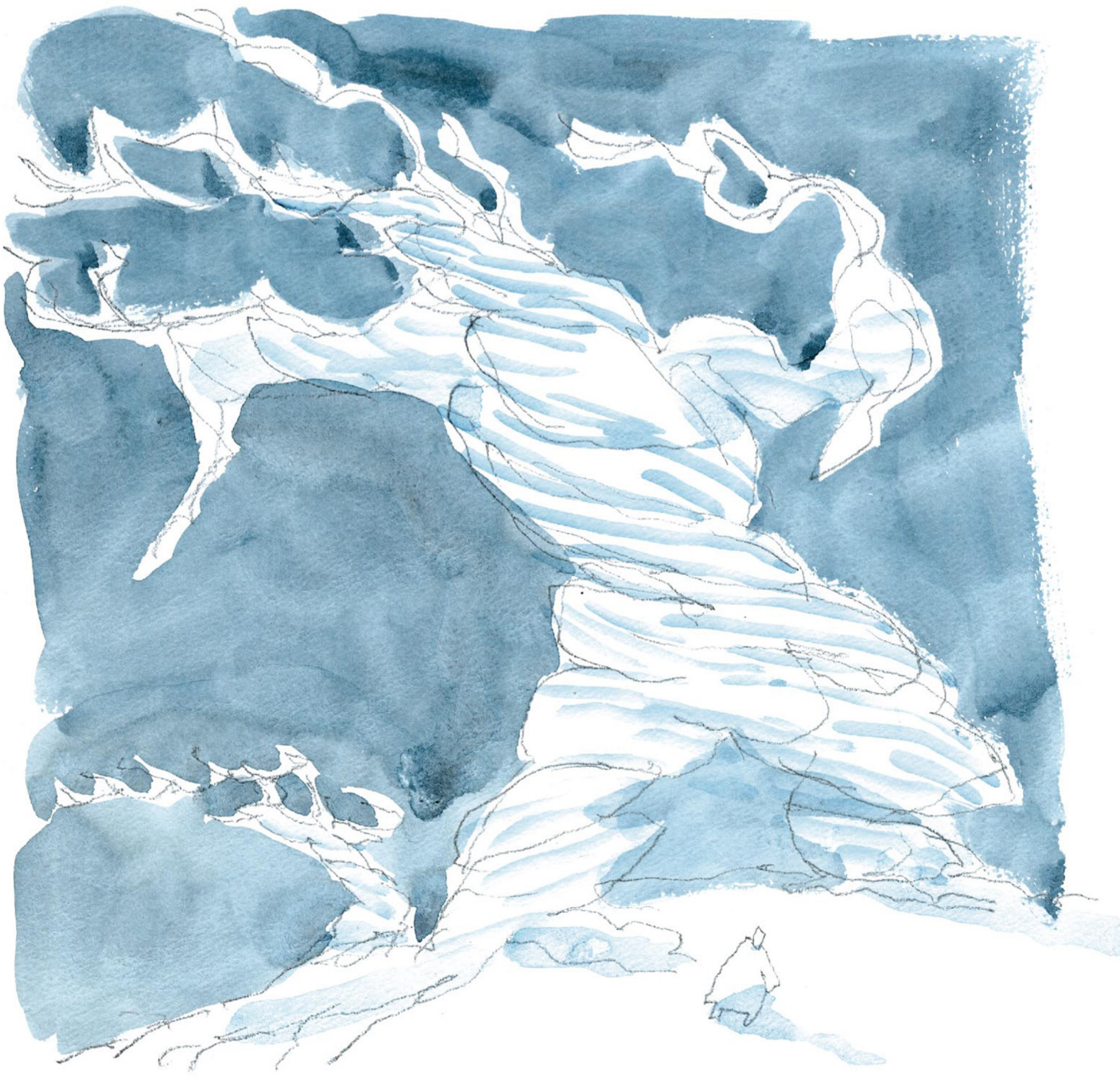
由佳も駆けつけ加勢。やっとのことで一馬を止める。最期は俊彦が看取る。さすが兄さんは強いな、かなわないよ。僕は誰？　お前は俺の弟だ。もう武道はやりたくないよ。

崩壊するビル。精神科医が持って来たパラシュートで飛び降りる二人。精神科医もパラグライダーで飛んでいく。

精神科医が操縦する飛行機に乗って、俊彦と由佳は旅立つ。由佳はおもむろに、俊彦の動けなくなるツボを突く。動けなくなった俊彦の身体からパラシュートを外し、ドアから投げ捨てる。「やっぱりあなたの相手はあたしじゃだめかも」。由佳はそう言い残して、一人飛び降りる。起きあがる俊彦。ツボは外しておいた。精神科医は、もし彼女を追いかけるならパラシュートを着けるようすすめるよ？　と言うが、俊彦は断り、何も着けずに飛び降りる。

由佳めがけて落下していく俊彦。由佳は彼を受け止める。

パラシュートが開き、二人は島に降りていった。



猟奇的な恋人（仮）

種別／TVアニメーションシリーズ（全13話予定）
視聴対象年齢／20代を中心に広く一般層
放映開始／2006年春予定
企画・制作／マッドハウス
原作・監督／湯浅政明

キカク書へ戻る

トップメニューへ戻る